

テーマ

静かな貧困

～声をあげられない女性たち

コラム

京都大学大学院

文学研究科准教授

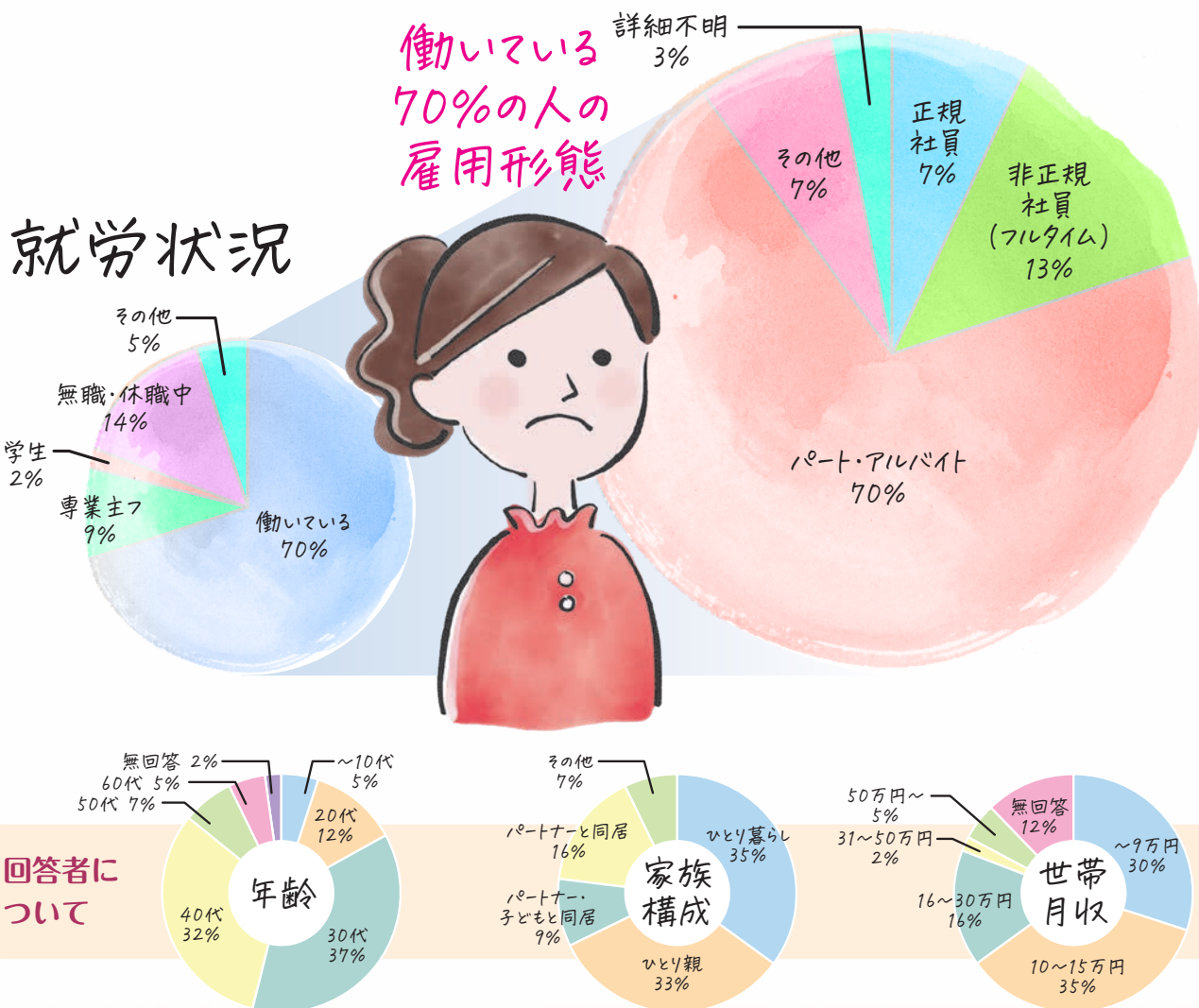
丸山里美さん

りふる

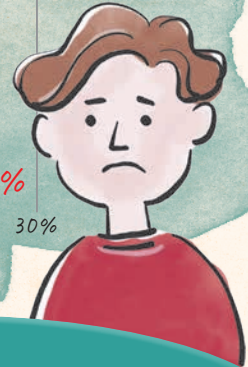
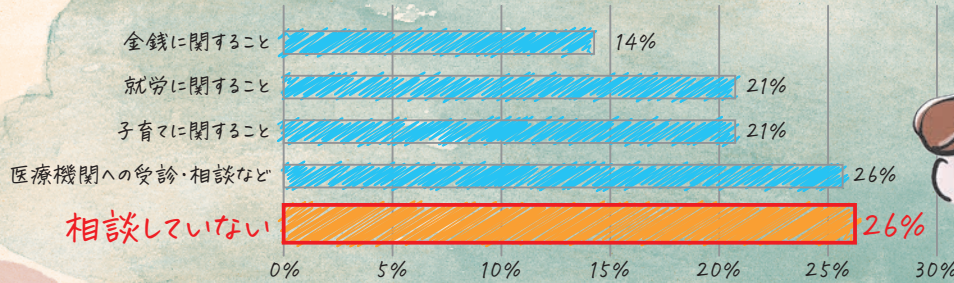
さつぽろ

静かな貧困 ～声をあげられない女性たち

当センターは2020年より市内の女性支援団体などと共に「Cloudy」というネットワークを立ち上げ、コロナ禍で生活に困っている女性に生活必需品を配布してきました。回を重ねるにいたが、数名の女性が苦しい胸の内を話してくれるようになりました。もっと広く詳しく話を聞くために、会場とTwitter上でアンケートを実施しました。寄せられた切実な現状に目を向け、私たちにできることを模索していきます。



利用したことがある相談や制度



まだ若いから生活保護などは絶対に受けられないと思う。どのタイミングでどこに頼れば良いのかわからない。(30代)

もっと困ってる人がいると思うので(支援制度は利用していない)。(50代)

どのような状況になったら申請するものなのかわからない。(20代)

Q. 制度を利用しない理由/
制度や支援に思うことは?

Q. 自治体の制度や支援機関の
援助を利用していますか?

独身で子どもがいない非正規雇用の女性は、低収入・非正規・未婚の支援が必要だと思っています。将来へ十分な備えが難しい一方、年代が上がるにつれ親の介護や自身の健康問題が出てくるので、失業や病気などで一気に生活が崩れる可能性があります。日本では女性は結婚すれば夫の収入で生活が安定するという考え方が根強く、こうした女性に目を向けてこなかったと思います。国や自治体に正規雇用への転換や生活支援制度に関する情報提供を強化してほしいです。札幌市が先駆けとなってくれるを願っています。(30代)

女性の昇進が認められずあきらめた。どんなに頑張っても女性は管理職になれない。(40代)

バツハラやいじめにあっているがこれまで正規社員になったことがないし、技術もないので転職できない。(40代)

夫の上司の理解を得られず夫の会社から休職を断わられた。(30代)

Q. これまでに何かを諦めた
経験はありますか?

Q. モヤモヤしていることは
ありますか?

離婚前のプレシグルマザーなのでこの相談窓口に行けばよいかわからない。(40代)

母子家庭になってから苦しい。離婚後の養育費を払わない父親が多い。強制的に払わせる仕組みを作らないと母親と子どもが生活に困る。(50代)

ハローワークでも窓口で断られた。たらい回しになり、行政に振り回された。(70代)

生活費にかかえる物品の値上がり(ガソリン・小麦粉など)が地味につらい。(年代不明)

Q. 生活で困っていることは?

以前体調をくずし退職した時に、夫が金銭も生活も通院もサポートしてくれず漠然とした不安があります。(40代)

妊娠中の離婚から生活が苦しい。別居時から生活保護を受給しています。(30代)

コロナ禍で

より浮き彫りになった

女性の貧困

見えにくい、あるいは見ないように
されている「女性の貧困」。
貧困が生み出される原因となる
社会の構造や、女性ならではの
課題について京都大学の丸山里美さんに
お話しいただきました。

話し手：丸山 里美さん

書き手：師田真由美さん(ライター)

人々の生命や生活に大きな影響を及ぼし、多くの女性の雇用や生活を直撃したコロナ禍。子育て世代の女性は、臨時休校やステイホームの呼び掛けで家事・育児等の負担が増し、勤務の継続や失業後の再就職が困難となっています。ひとり親家庭の貧困率は50%を超えるという調査もあり、特に非正規雇用のシングルマザーは、失業や収入減により生活苦に追い打ちをかけられています。

なぜ、このような女性の貧困が起きるのでしょうか。戦後日本の社会では、家族内に男性の稼ぎ主がおり、未婚女性は父親に、既婚女性は夫に扶養されていることが多く、社会保障制度もその前提でつくられています。つまり、性別役割分業が社会システムに組み込まれているのです。しかも、働く女性の約半数が短時間労働や非正規雇用で、男女の賃金格差も大きいままです。

結婚したら貧困から抜け出せるかというと、必ずし

もそうとはいえません。世帯収入で見ると貧困に該当しなくても、妻となった女性の多くは扶養の範囲内で働くことが多いため年収は100万円程度と少なく、家庭に十分な生活費を入れてもらえないようなことがあると、妻個人は貧困を経験することもあります。また離婚で世帯が壊れた場合は、収入の少ない女性へのダメージは大きくなります。

これは未婚で実家に暮らす女性も同様で、稼ぎ主である父親が定年退職あるいは失業や他界すると、貧困に陥りやすくなります。また、夫が他界した高齢女性も当てはまります。

では、結婚せずに自立して働き続けたら貧困にならないかというと、これもまた違います。今は未婚化や晩婚化も進んでおり、戦後の日本で形づくられてきた標準的な家族のあり方が崩壊してきました。正規雇用として働く女性も増えていますが、管理職に就く女性



プロフィール

丸山 里美

(京都大学大学院 文学研究科 准教授)

京都大学文学研究科博士課程
単位取得認定退学。博士(文学)。
専攻は社会学、ジェンダー論。
現在、京都大学大学院文学研究
科准教授。

著書に『女性ホームレスとして
生きる〔増補新装版〕—貧困と
排除の社会学』(2021年、世界
思想社)などがある。

※1:

令和2年度「雇用均等基本調査」
によると、管理職に占める女性の
割合は、部長相当職で8.4%
(令和元年度6.9%)、課長相当職
で10.8%(同10.9%)、係長相当
職で18.7%(同17.1%)。

※2:

厚生労働省
「令和2年賃金構造基本統計調査」

は少なく(※1)、昇給の幅も小さく、最終的な男女の
給与格差につながっています。

女性の貧困を取り上げること、「男性も大変なん
だ」という声も上がってきます。確かに非正規雇用
の男性の貧困は、女性の貧困と近いといえます。そも
そも非正規雇用自体、女性のパートやアルバイトなど
の家計補助的な働き方だったものが、2000年代に
入って男性にも拡大してきたのです。しかし、非正規
雇用という枠内で比較しても、女性の方が賃金は低い
のが現状です。これは非正規雇用の働き方や収入格差
に問題があるだけではなく、日本社会のジェンダー不
平等の構造が顕在化したものなのです。

子育て世代や未婚・非婚の女性にとどまらず、若い
女性にも貧困は及んでいます。一見するとおしゃれな
若い女性からは、生活苦を感じさないため想像できな
いかもありませんが、20代前半の女性の賃金は性別・
年齢的に見て最も低い水準にあります。(※2)。

東京で貧困支援を行うNPO法人「自立生活セン
ター・もやい」の調査をしたことがあります。そこに寄

せられる女性からの相談の特徴としては、幼少期に虐
待に遭った、DVを受けている、職場でハラスメント
にあつてメンタルの問題を抱えるようになったなどと
話す人が少なくなく、女性の貧困の背景にある暴力の
問題が感じられました。

女性は貧困に陥っていても、「恥ずかしい」という気
持ちもあつて声を上げにくく、それゆえに社会問題と
して見えにくくなっています。シングルマザーの場合、
児童扶養手当などの支援もありますが十分とはいえ
ず、単身女性の場合は生活保護ぐらいいしか利用できる
制度はありません。

最低賃金が上がリ、非正規雇用者が加入できる社会
保障を拡充するなど、女性が経済的に自立する環境が
整わなければ女性の貧困は改善しません。これは社会
全体で解決していくべき問題なので、地域や個人でで
きることは限られます。しかし、相談できる場がある
ことで救われる人も多いでしょう。また、利用できる
制度の情報などを発信していくことで、必要とする人
に届いて生活を立て直す機会になるかもしれません。

札幌市からの 情報提供

困った時の 相談窓口

アンケートでは相談窓口を利用していない人が26%いました。
利用している相談窓口でも差があり、金銭に関する相談を
している人は少ないです。
生活費などに関する市の制度や相談窓口について、札幌市に聞いてみました。



りぷる編集スタッフ:

アンケートでは相談窓口を利用していない人が4人に1人もいて、生活費に関する相談をしている方も14%だけでした。札幌市ではどんな制度がありますか？



札幌市:

まず左記のコード1のサイトをご覧ください。コロナに関した窓口をまとめたHPですが、幅広く利用できる制度が載っています。

りぷる編集スタッフ:

生活に関する制度だと、札幌市の生活保護や札幌市生活就労支援センター(ステップ)などが利用できるでしょうか？



札幌市:

そうですね。生活保護は状況に応じ、生活のために必要な支援を行う制度です。ステップでは生活の困りごとの解決のお手伝いをしています。就労の支援も行っていますし、居住確保給付金の支給窓口にもなっています。電話やお問い合わせフォームからご予約ください。

りぷる編集スタッフ:

アンケートでは「20代だから生活保護が受けられるかわからない」という声もあったのですが、年齢は関係ありますか？



札幌市:

制度を利用するには確かに条件がありますが、年齢などによるのではなく、個人のケースによって判断されます。相談は誰でもできますのでお気軽にご相談ください。

りぷる編集スタッフ:

「どんな制度があるのか知らない」という声もありました。まずは相談することが大切です。役所での相談の前にどこかに気軽に相談したいという方は裏表紙に記載している「女性のための総合相談・法律相談」にご相談いただけたらと思います。



札幌市:

他にも「Women's LINE」というLINE相談もありますね。ためらわず制度や相談窓口を訪ねてみてください。



1. 札幌市内の 相談窓口一覧



2. 生活保護について



3. ステップ(札幌市生活 就労センター)について



4. Women's LINE (運営:札幌市男女共同参画センター)

Novel



三千円の使い方

原田ひ香 著

中公文庫

家族3世代4人の女性にお金に関わる問題が巻き起こります。自分の生活と友人の生活を比べてしまう姉。母や祖母世代にありがちなお金にまつわる相談や問題。結婚を考えている相手に奨学金の借金があることを知る妹。各場面の金額がリアルです。お金は生活に不可欠だけど、人生はお金だけでもありませんよね。この家族がどう解決するのか、どんな人生にするのか気になる小説です。あなたならどんな生活を望みますか？

Youth



みんなはアイスなめている
～おはなしSDGs 貧困をなくそう～

安田夏菜 作

講談社

小学6年生の陸の家は給食費も学童保育のお金も払えない。妹はテレビに映るやせこけた外国の子どもを見て「うちは貧乏なんかじゃない!」というが、本当にそうなんだろうか？
子どもの視点を通して、日本の「貧困」を描く物語。遠い外国の明日の命が危うい子どもたちの話ではなく、見えていないだけ、あるいは見えないようにしている身近にある貧困問題について考える一冊です。

Reportage



ルポ コロナ禍で追いつめられる女性たち

飯島裕子 著

光文社新書

以前から単身女性の貧困はひっそりと問題になっていました。65歳以上の高齢単身女性の約半数は貧困に陥っているとも言われています。どの制度にもひっかからない、または自分是对象外だと思っている行き場のない女性たち、コロナ禍であっても安心して家にいることができない女性たち、SNSなど発信する手段を持たない女性たち、彼女たちへの支援が急がれます。

Sociology



女性ホームレスとして生きる 貧困と排除の社会学 増補版

丸山里美 著

世界思想社

コラムにご協力いただいた丸山さんの著作の増補版です。丸山さんが出会った、野宿をしたり宿泊所で暮らしたりする女性たちの声が掲載されています。「女性ホームレス」という記号ではなく、いま生きている人と出会うことができる本です。
ホームレスは男性という思い込みや女性への支援制度で前提とされてきたことなど、福祉制度に潜むジェンダー観についても解説しています。

札幌エルプラザ情報センターを知っていますか？

札幌エルプラザ内にある「情報センター」では男女共同参画を含めた4分野の資料を閲覧したり借りたりすることができます(ご利用は無料です)。
マークが付いているものは情報センターで借りることができますので、ぜひ遊びに来てください。

情報センターへのお問い合わせは

011-728-1223

(開館時間 9:00~20:00)
(貸出時間 9:00~19:45)

り
ふ
る
の
ス
ス
メ

このページではセンター職員がおススメする本をご紹介します。
あなたのお気に入りになれたら嬉しいです。



札幌市男女共同参画センター相談窓口のご案内

札幌市男女共同参画センターでは相談窓口を開設しています。相談料は無料です。各相談では専門の相談員がお話をお伺いし、秘密は固く守ります。
相談内容から浮かび上がった問題は、ジェンダーに関わる課題として市民や行政に投げかけ、男女共同参画社会の実現に生かします。

	日 時	相 談 員	相 談 方 法	相 談 内 容
女性のための 総合相談	第1・3水 10:00～12:00 第2・4水 18:00～20:00	カウンセラーなど (女性)	面談／電話 (011-728-1225)	・パートナーとの関係や、家庭における性別役割に関わること ・セクシュアリティや恋愛、対人関係に関わること ・職場や地域における性別役割に関わること
女性のための 法律相談	第1・3金 18:00～20:00	弁護士 (女性)	面談	・DVや離婚、別居に関わること ・職場や地域等でのセクシュアル・ハラスメントなど ・性別を理由とした不当な扱い、嫌がらせなど 予約受付電話：011-728-1255 ※完全予約制なので事前にお電話でご予約ください。

編集後記

コロナ禍によって様々な社会課題が話題になっています。女性の貧困をはじめ、こうした問題は今になって起きたことではなく、これまでずっと社会にあった問題です。しかし、なかなか直視されてこなかった現実があります。アンケートでも「どこに行けばいいのかわからない」という声が多く寄せられました。困っている人が社会と切り離されるのではなく、必要な支援が行き届き希望をもって生活できる社会の実現を切に望みます。そのために、今近くで声を上げられずに困っている人の存在に気づき、目をそらさずに未来を考えていくことから始めていきたいです。

#SAPPORODIVERSITYFORUMを 開催しました

#SAPPORODIVERSITYFORUMは、ワーク・ライフ・バランスや女性活躍、男性の家庭参画、セクシュアリティなど様々なテーマを通して、札幌に住むあなたと一緒に札幌がダイバーシティな都市へ進化することを目指す札幌市主催の継続的なプロジェクトとして実施されました。多様性に溢れ誰もが暮らしやすい社会を作るには、一人ひとりの意識変容と企業など社会の制度改革・風土醸成が重要です。11月から2月まで4か月にわたり講師の方をお招きし、企業の管理職・人事担当者から学生や市民の方まで、様々な属性の方に向けたセミナーを無料でオンライン開催、テーマも働き方改革から男性の家庭参画、ハラスメント対策、ワーク・ライフ・バランス、DV防止、学生のキャリア、セクシュアリティまで多岐にわたりました。当日参加できなかった方のために、ほとんどのセミナーを期間限定でオンデマンド配信しましたが、対面セミナーが難しい中、職場や自宅、カフェなどから多くの方に参加いただきました。

発行月：令和4年3月

発行：札幌市男女共同参画センター

【指定管理者：公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会】

facebook：https://www.facebook.com/pages/札幌市男女共同参画センター/377759212234904

所在地：〒060-0808

札幌市北区北8条西3丁目札幌エルプラザ内

電話：(011)728-1255 FAX：(011)728-1229

ホームページ：https://www.danjyo.sl-plaza.jp

本誌のタイトル「りぶる」は、英語 (ripple) で「さざ波」という意味です。男女共同参画の意識がさざ波のように、少しずつ広がって欲しいという想いを込めました。

